

第5章 移動ニーズ・実態把握

公共交通利用に関して、沖縄市では平成25年度に市民アンケートを、平成28年度には、「公共交通網形成計画策定基礎調査」において、住民アンケート、利用者アンケート、ヒアリング調査等を実施しました。本章では各調査結果をもとに沖縄市における移動ニーズや実態を整理しています。

表 5-1.各調査の概要(1/2)

調査名	項目	内容
市民アンケート (H25)	調査実施期間	平成25年12月～平成26年1月
	調査方法	郵送配布・郵送回収
	調査対象	沖縄市民
	配布票数	10,000世帯、20,000票を配布
	回収票数	3,760票
	回収率	18.8%
	主な把握項目	<ul style="list-style-type: none"> ●通勤・通学地 ●利用している移動手段 ●住んでいる地域で感じる交通問題 ●行政に取り組んでもらいたい施策 等
住民アンケート	調査実施期間	平成28年10月～11月
	調査方法	郵送配布・郵送回収
	調査対象	沖縄市民
	配布票数	4,000票
	回収票数	702票
	回収率	17.6%
	主な把握項目	<ul style="list-style-type: none"> ●主な外出目的・外出先 ●公共交通の利用状況 ●公共交通の満足度・不満 ●バスルートの希望 等
利用者アンケート	調査実施期間	平成28年10月20日(木) 7～19時
	調査方法	ヒアリング及び郵送回収
	調査対象	胡屋、コザバス停の6つの停留所利用者
	回収票数	464票
	主な把握項目	<ul style="list-style-type: none"> ●バス利用頻度 ●バス利用状況(目的、利用区間、バス停までの移動状況等) ●乗り継ぎ状況 等
公共交通に関する意向把握	調査実施期間	平成28年12月～平成29年1月
	調査方法	ヒアリング
	調査対象	交通事業者、自治会、高校、病院等
	主な把握項目	<ul style="list-style-type: none"> ●公共交通の利用状況 ●公共交通の問題点 ●公共交通への要望 等

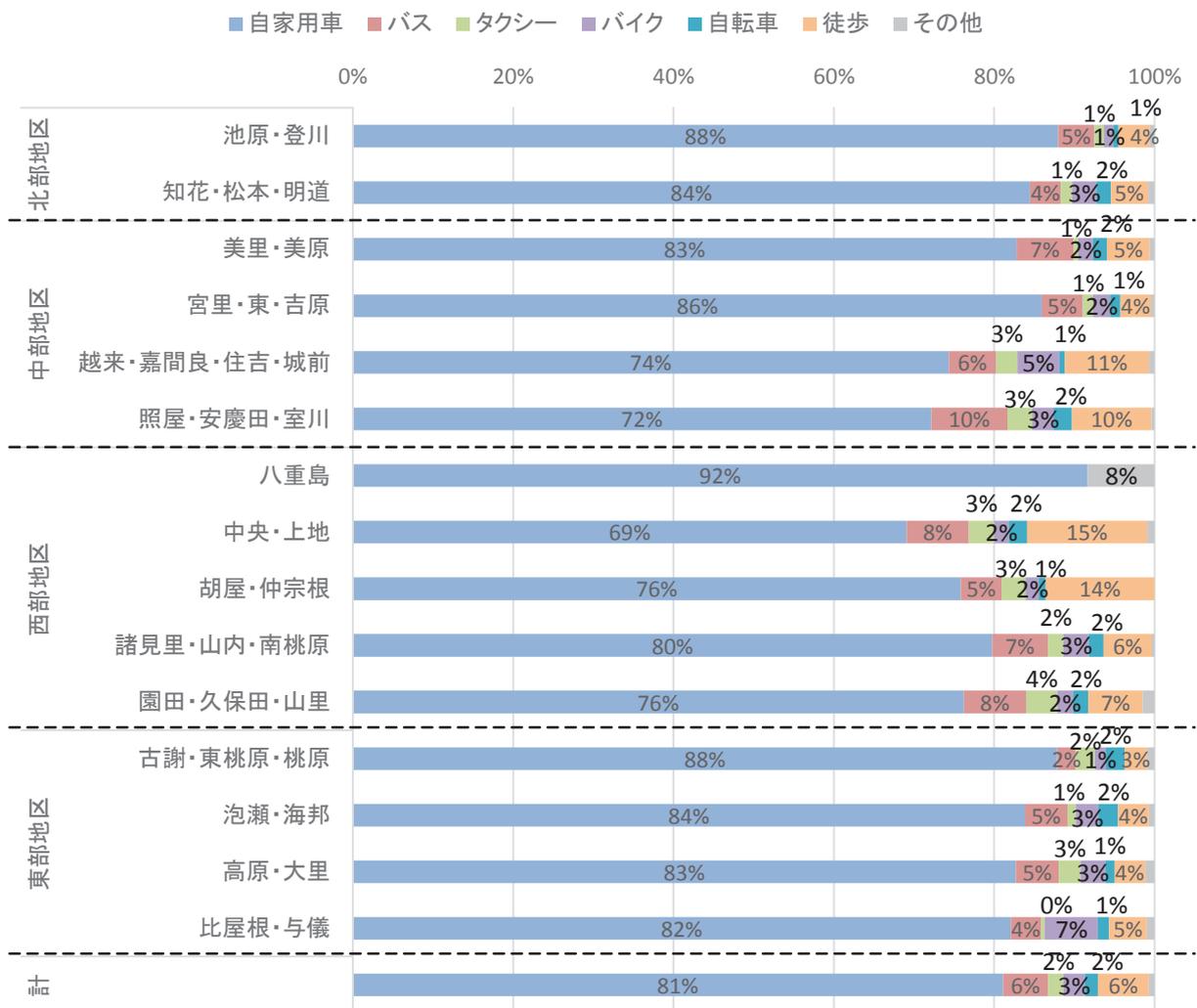
表 5-2.各調査の概要(2/2)

調査名	項目	内容
市民アンケート (H29)	調査実施期間	平成29年10月
	調査方法	郵送配布・郵送回収
	調査対象	高校生以上の市民
	配布票数	4,000票
	回収票数	570票
	回収率	14.3%
	主な把握項目	●中心市街地循環バスの利用状況・利用意向 ●普段の移動実態 等
沖縄県公共交通 活性推進協議会 アンケート	調査実施期間	平成23年10月
	調査方法	学校を通じた直接配布・直接回収
	調査対象	那覇市、浦添市、宜野湾市、沖縄市の小中高生。小学生は4年生以上の全児童、中学生、高校生は全生徒
	配布票数	80,700票
	回収票数	54,480票
	回収率	67.5%
	主な把握項目	●公共交通の利用状況 ●通学時の交通手段、送迎の状況 ●公共交通の利用意向 等
沖縄本島中南部 都市圏パーソ ントリップ調査	調査実施期間	平成18年10～11月
	調査方法	訪問配布・訪問回収、別途WEB調査も実施
	調査対象	沖縄本島中南部都市圏の満5歳以上の居住者
	配布世帯数	39,501世帯
	回収世帯数	25,743世帯
	回収率	65.2%
	主な把握項目	●属性 ●平日の移動状況 ●TDM 施策に対する意向（自動車を運転する方のみ） 等
国勢調査	調査実施期間	平成27年10月1日
	調査方法	訪問配布、訪問回収、郵送回収又はWEB回答
	調査対象	調査時に居住しているすべての人
	主な把握項目	●属性 ●就業状況 ●通勤通学状況 等
沖縄県買物動向 調査	調査実施期間	平成26年9月1日
	調査方法	訪問配布訪問回収
	調査対象	県内各市町村の1.67%の抽出世帯
	配布票数	9,233票
	回収票数	8,381票
	回収率	90.8%
	主な把握項目	●買い物頻度 ●買い物場所 ●買い物理由 等

1 市民アンケート(平成 25 年度)

1-1 地区別の交通手段の利用状況

- 地区ごとに主な交通手段をみてみると、各地区とも「自家用車」の分担率が高く、北部地区、東部地区では、すべての地域で分担率が80%を超えています。
- バスの分担率は全般に低くなっていますが、「照屋・安慶田・室川」で10%、「中央・上地」、「園田・久保田・山里」で8%と国道330号沿いの中心市街地で分担率がやや高くなっています。
- 一方、北部地区、東部地区はバスの分担率が5%以下と低く、特に「古謝・東桃原・桃原」では、わずか2%となっています。

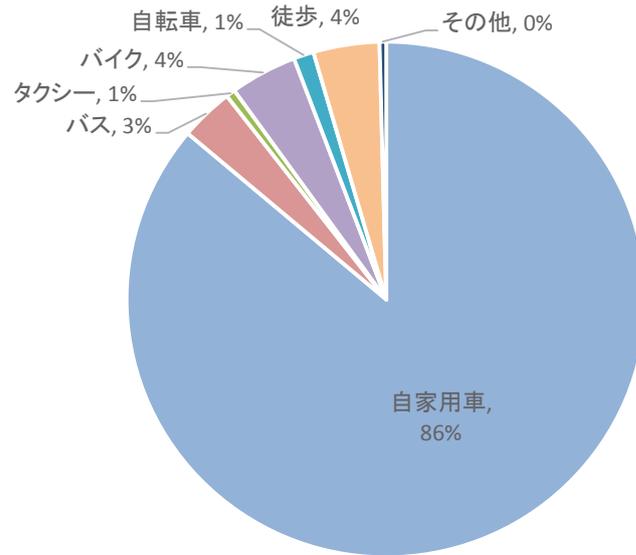


出典：H25 市民アンケート

図 5-1.地区別の主な利用交通手段の分担率

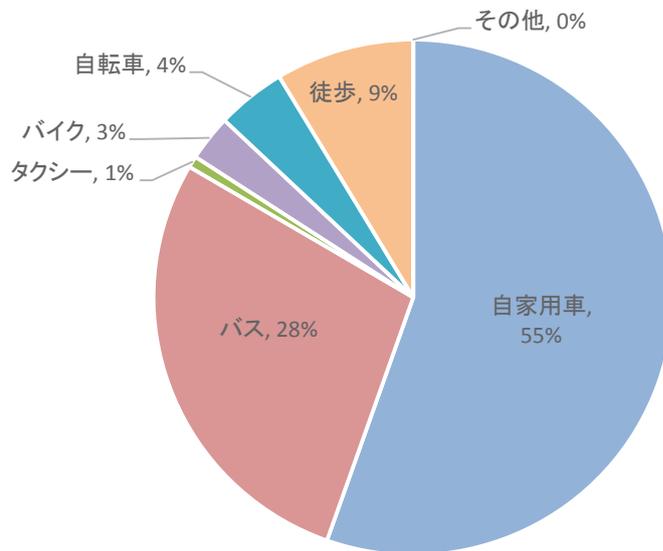
1-2 通勤・通学手段

- 平成 25 年度に実施した市民アンケートによると、市民の通勤時の利用交通手段の 86% は「自家用車」となっており、通勤手段の大半を占めています。
- 通勤におけるバスの利用は 3%にとどまっています。
- 通学（15 歳以上）においても「自家用車」の利用が 55%と最も多くなっていますが、「バス」の利用も 28%と約 3 割を占めています。



出典：H25 市民アンケート

図 5-2.市民の通勤時の利用交通手段の構成比



出典：H25 市民アンケート

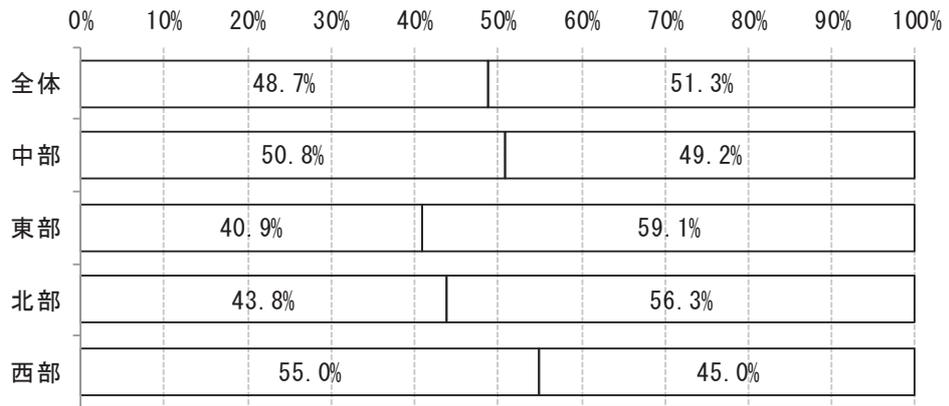
図 5-3.市民の通学時の利用交通手段の構成比(15 歳以上が対象)

2 住民アンケート(平成 28 年度)

2-1 外出状況

(1) 主な外出先の市内・市外の内訳

●市民の主な外出先は、市内、市外がほぼ半々であり、東部地区、北部地区は市外への外出の方が多くなっています。



□ 沖縄市内 □ 沖縄市外

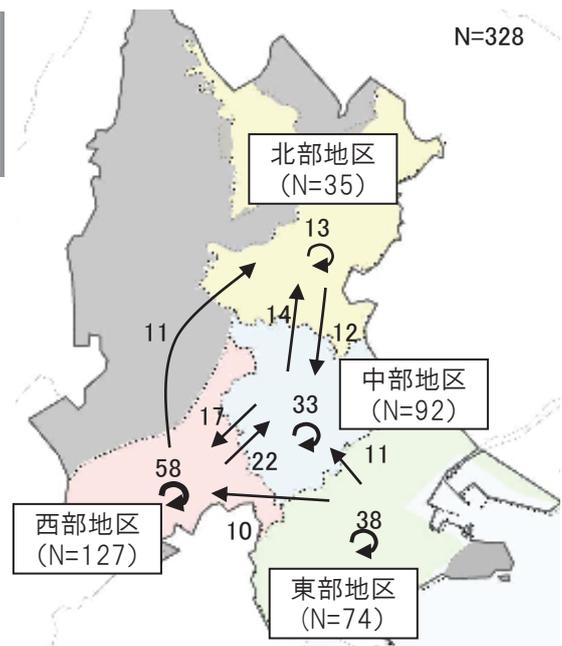
(N=673)

出典: H28 住民アンケート

図 5-4.市民の主な外出先

(2) 市内の外出先

●市内の外出先は、地区内の移動が多く、地区間では中部地区関連の移動が多くなっています。



※10 サンプル以上を図示

出典: H28 住民アンケート

図 5-5.市内の主な外出先

(3) 市外の外出先

●市外への主な外出先は、うるま市が多く、その他では那覇市、北中城村への外出が多くなっています。

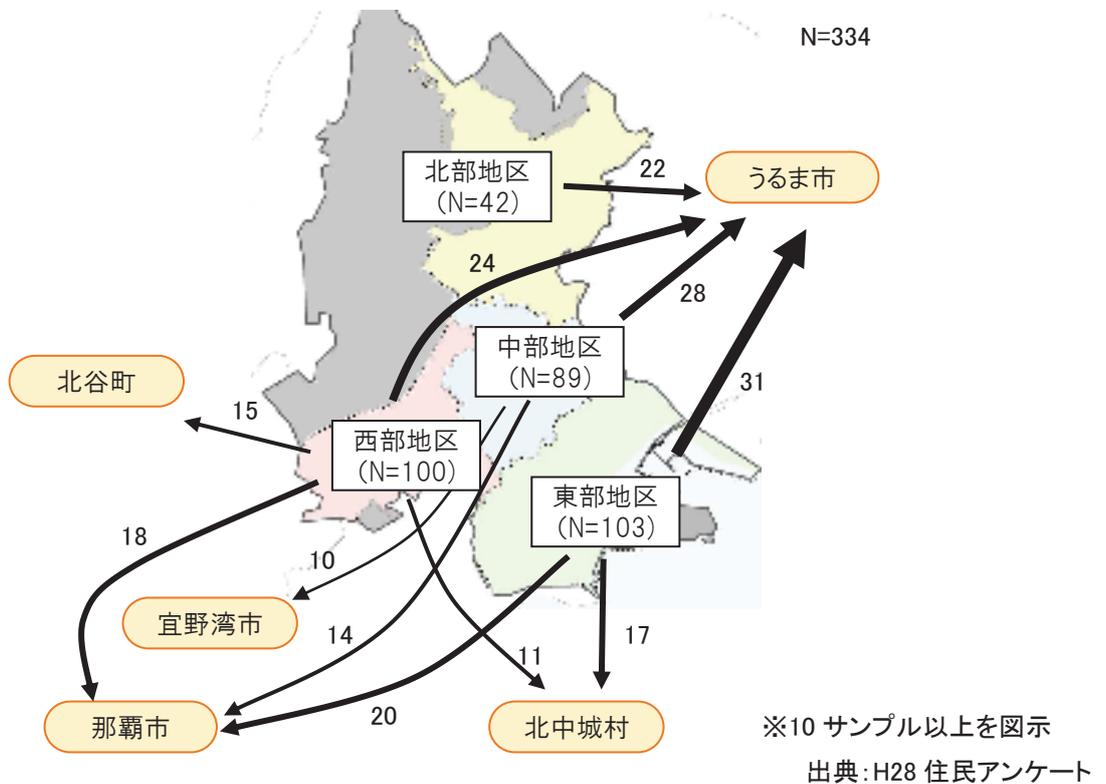
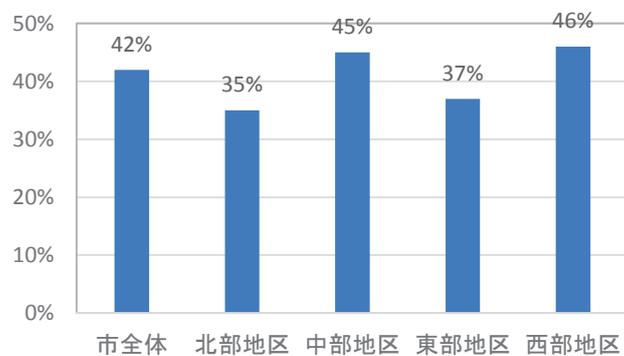


図 5-6.市外の主な外出先

2-2 路線バスの利用状況

●過去 1 年間で路線バスを利用したことがある方の割合は、市全体で 42%であり、地域別では、中部地区、西部地区が高く、北部地区、東部地区が低くなっています。
●約 6 割の市民が、過去 1 年間で路線バスを利用したことがないことになります。



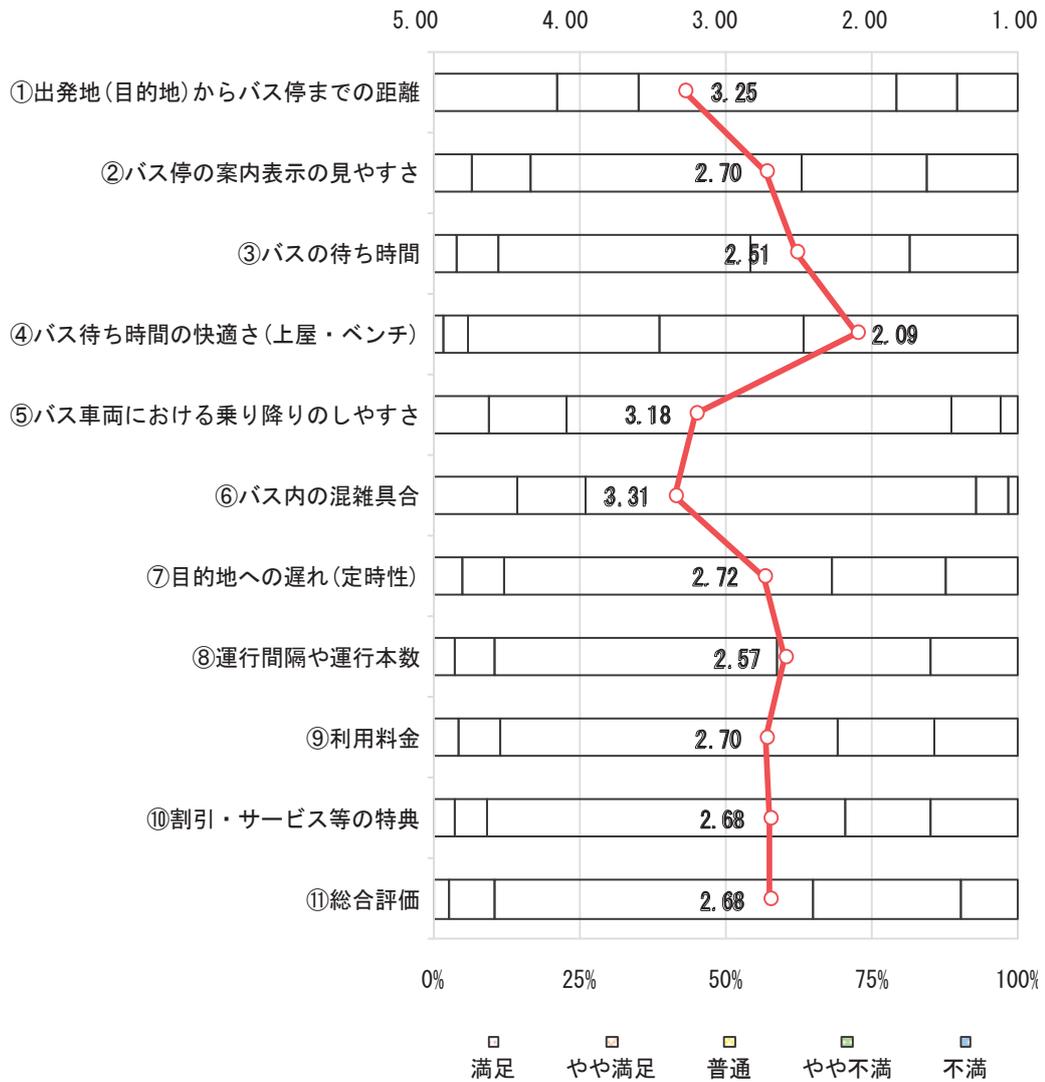
出典：H28 住民アンケート

図 5-7.過去 1 年間の路線バスの利用割合

2-3 路線バスの利用満足度

●路線バスの利用満足度は、5点満点で2.7点の総合評価となっています。

●項目別では、「バス待ち時間の快適さ（上屋・ベンチ）」の満足度が2.1点と低く、ほとんどの項目で3.0点（普通）を下回っています。

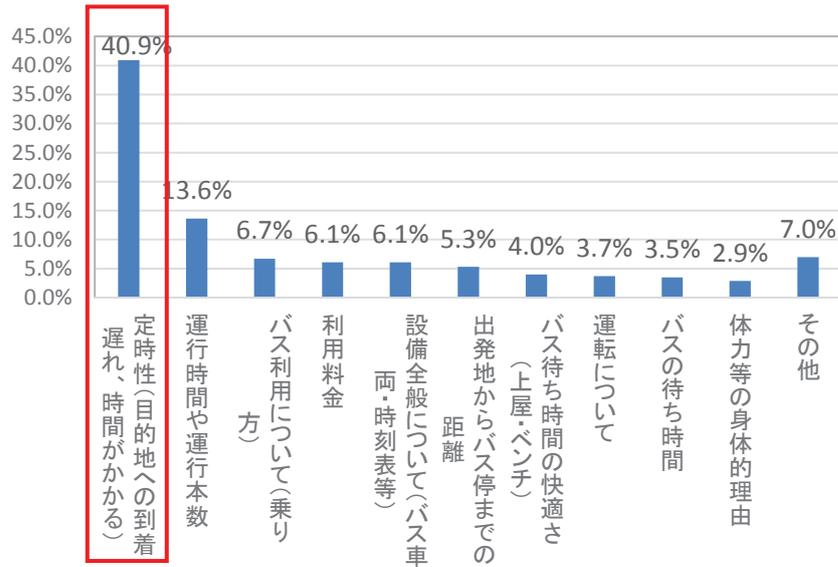


データ：H28 住民アンケート

図 5-8.路線バス利用の満足度

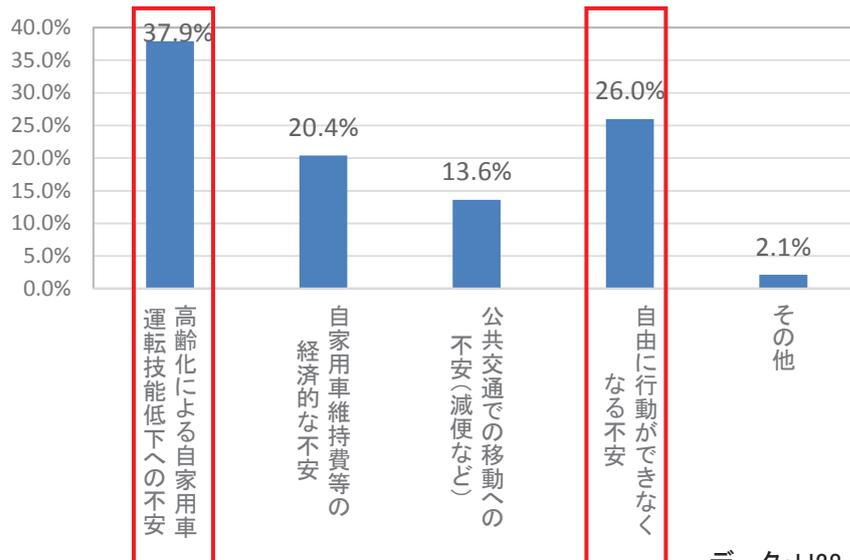
2-4 バス利用に関する不安

- バス利用にあたって不安なこと・心配なこととして、約41%の方が「定時性（目的地への到着遅れ、時間がかかる）」を指摘しており、定時性の確保が喫緊の課題といえます。
- また、将来においては「高齢化による自家用車運転技能低下への不安」を感じている方が約38%、その他では「自由に行動ができなくなる不安」が26%と多く、将来に向けて、誰でも自由に移動できる環境づくりが課題となっています。



データ：H28 住民アンケート

図 5-9.バス利用にあたって不安なこと・心配なこと

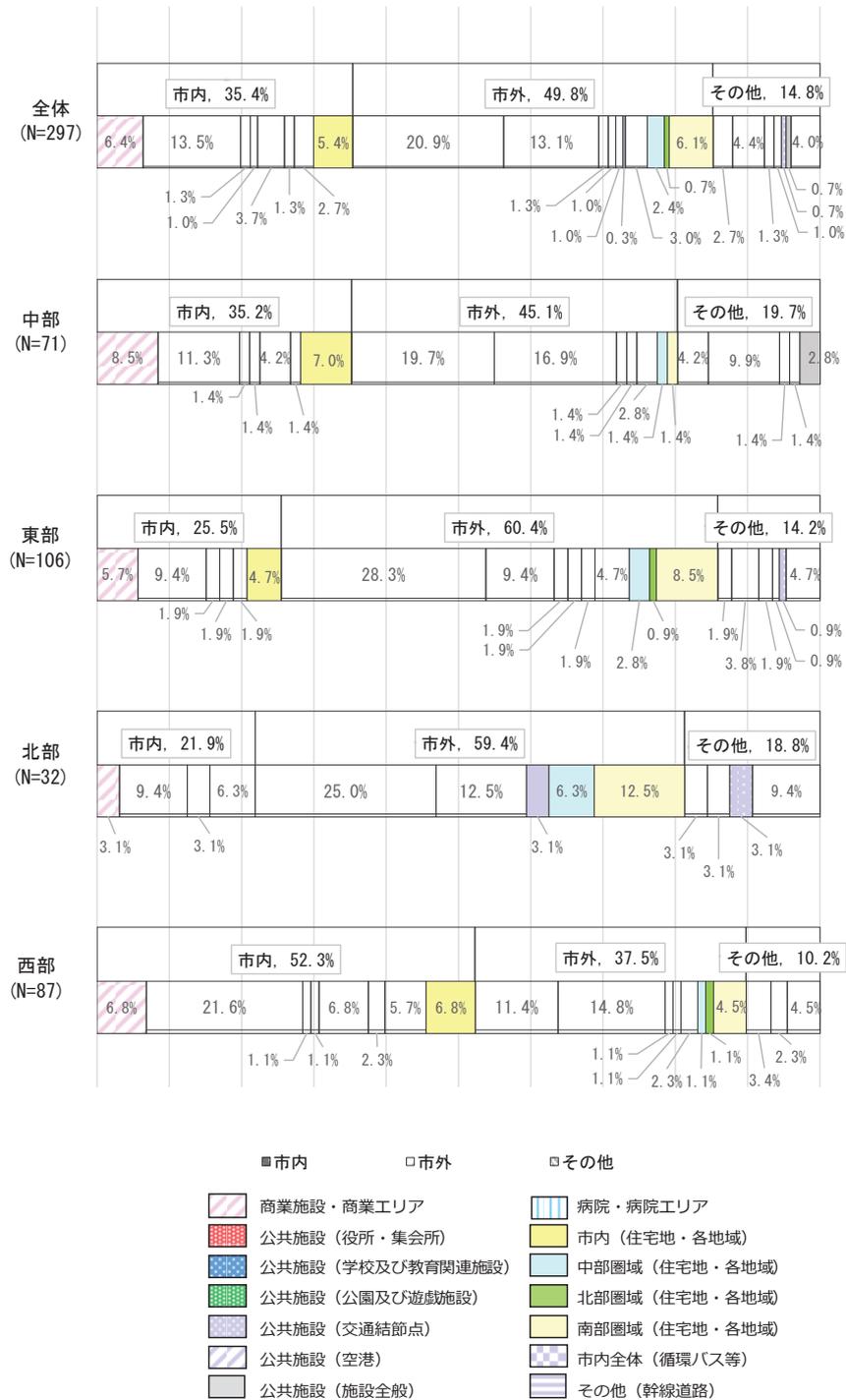


データ：H28 住民アンケート

図 5-10.将来のお出かけについて不安を感じること

2-5 希望するバスルート

- 希望するバスルートの行き先としては、市内よりも市外へのニーズが高くなっています。
- 特に東部地区、北部地区の方は6割が市外の行き先を希望しています。
- 行き先の施設としては、「商業施設」が市内・市外あわせて、27.3%と多く、その他では「病院」が26.6%と多くなっています。



データ: H28 住民アンケート

図 5-11.希望するバスルート

3 利用者アンケート(平成 28 年度)

3-1 路線バスの利用目的

- 路線バスの利用目的は、コザと胡屋をあわせた全体では、「通学」が31.7%、「通勤」が30.6%と多く、その他では「買い物」が11.2%を占めています。
- コザと胡屋を比較すると、コザは通学目的が、胡屋は通勤、買い物目的が多くなっています。

表 5-3.路線バスの利用目的

選択項目	全体		コザ		胡屋	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
通勤	142	30.6%	102	28.5%	40	37.7%
通学	147	31.7%	123	34.4%	24	22.6%
業務	5	1.1%	5	1.4%	0	0.0%
買い物	52	11.2%	37	10.3%	15	14.2%
通院	25	5.4%	21	5.9%	4	3.8%
習い事	8	1.7%	6	1.7%	2	1.9%
飲み会	3	0.6%	0	0.0%	3	2.8%
趣味・娯楽・ レジャー等の余暇	25	5.4%	21	5.9%	4	3.8%
観光	3	0.6%	3	0.8%	0	0.0%
その他	54	11.6%	40	11.2%	14	13.2%
合計	464	100.0%	358	100.0%	106	100.0%

3-2 乗り継ぎ利用

- 胡屋バス停では乗り継ぎ目的の利用は少ないですが、国道 330 号及び県道 75 号線と国道 329 号が交差するコザバス停では、全回答者 358 名のうち 57 名（16%）が乗り継ぎ目的で利用しています。

表 5-4.乗り継ぎ利用

項目	コザバス停	胡屋バス停
全回答者数	358	106
乗り継ぎ者数	57	2
乗り継ぎ割合	16%	2%

4 公共交通に関する意向把握(平成 28 年度)

4-1 自治会

- 自治会ヒアリングでは、宮里地区への中心市街地循環バスの運行や市街地内外でのコミュニティバスの運行、バス停環境の整備などの要望があげられています。

表 5-5.自治会ヒアリング結果

項目	内容
地域における公共交通の利用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・利用の多いバス停は、美里2丁目、安慶田、嘉間良、胡屋、園田、比嘉、プラザハウス前、コザ、コザ高校前、照屋入口、知花、沖縄市農民研修センター前、美里入口。 ・学生の利用が多い。 ・県道24号線を走るバスは住民の足として定着している。
運行ルートの問題点・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・北美小学校前、胡屋十字路、住吉交差点、古謝大橋等での交通渋滞。 ・バス停の環境が悪く、安全面からも危険な状況。 ・嘉間良公民館と沖縄市民会館の間にバス停があると便利。
普段のお出かけに関する不安等	<ul style="list-style-type: none"> ・バスの遅れによる不安がある。 ・地元商店街の衰退による今後の買い物の移動。
要望	<ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地循環バスのルート（宮里）。 ・コミュニティバスの市街地内外ルートを考えて欲しい。 ・バス停におけるベンチや夜間時の照明。 ・園田バス停（南行き）でのバス停環境の整備（待ちスペース、上屋）。 ・路線バスと中心市街地循環バスそれぞれのバス停を共同使用。 ・時刻表の表示が小さい。

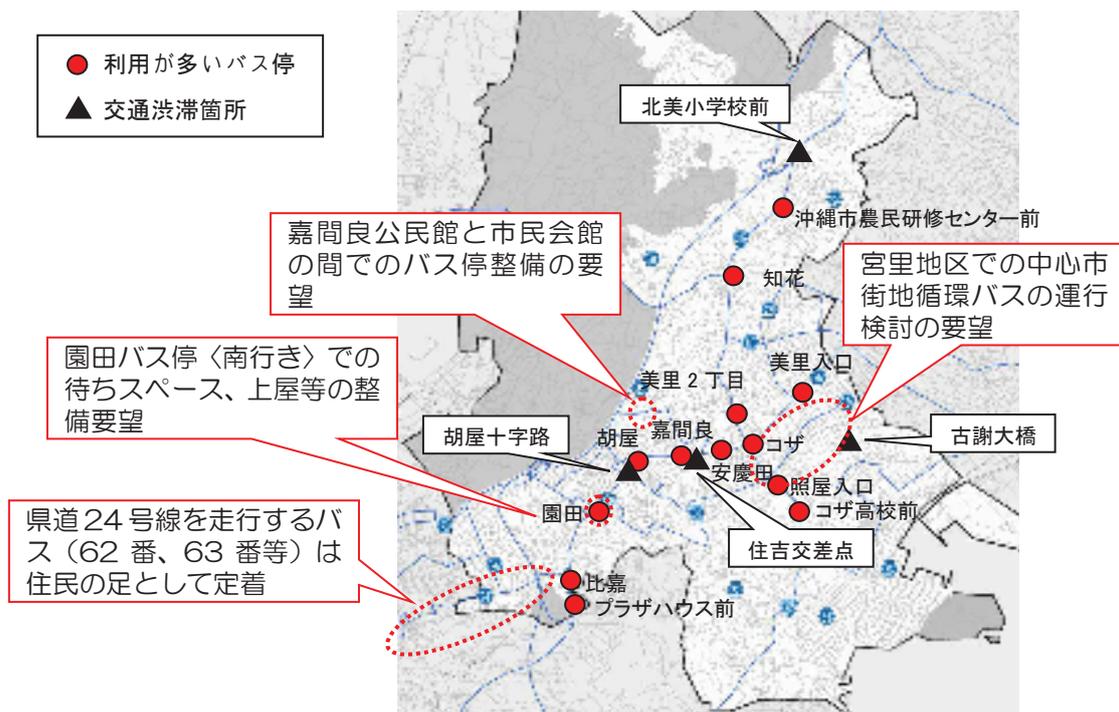


図 5-12.自治会ヒアリングの結果

4-2 事業者

- 事業者ヒアリングでは、バス利用の状況や問題点・課題、交通結節点等に関する意見を収集しました。
- 沖縄市にはターミナル機能が必要で、沖縄南 IC や、山里での交通結節点の整備が考えられるといった意見が寄せられました。

表 5-6.事業者ヒアリング結果

項目	内容
市内における公共交通の利用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が年々減ってきていくので減車、減回傾向にある。 ・コザ～山里、プラザハウスでの利用が主体である。 ・路線の起終点に各事業者の営業所がある。 ・最も利用者が多い路線は 23 具志川、90 知花。 ・コザ、胡屋、中の町での利用が多い。
運行ルートの問題点・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・路線バスはどうしても沖縄市を通過することになる。 ・泡瀬（県道 20 号線と 85 号線）交差点あたりまでの運行要望があるが採算面から困難な状況。 ・路線新設にあたっては大量輸送が見込まれるような環境が必要。 ・泡瀬～具志川で数年前に実証実験を行ったが需要が低かった。
改善点、利用促進に向けた取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・OKICA は予想より普及が鈍く、回数券や定期券ほどの割引がない。 ・日祝ファミリー割引を OKICA にも適用。 ・バスの乗り方教室を行っている（小学校、車いす体験など）。 ・モニター会議（年 4 回程度）を行っている。 ・バス停、上屋、ベンチなどの設置。 ・バスロケーションシステム。
要望	<ul style="list-style-type: none"> ・定時性の確保が最も多い。 ・市民会館前（循環バス）は横断歩道や陸橋がなく歩行者が横断できない。 ・中の町（サンエー前）にタクシー乗り場が欲しい。
市内の道路交通に関して	<ul style="list-style-type: none"> ・胡屋～コザの右折レーンがないところは事故が多い。 ・左折レーン上にバス停がある（渡口）。 ・バス停のみならず、バス停まで行ける環境づくり。 ・道路整備にあわせたバス停環境の整備をお願いしたい。
交通結節点や巡回場について	<ul style="list-style-type: none"> ・結節点の場所としては沖縄南 IC や山里が有利ではないか。 ・ターミナル機能が必要。集約すれば乗り継ぎの時間も短縮できる。 ・胡屋～コザ間の区間内に多くのバス路線を重複させず、急行バスと組み合わせる必要があり、胡屋～コザ間の区間内の運行を考える必要がある。 ・通勤利用者など固定利用が多く見込める場所。 ・まちづくり（活性化）による人の移動が多く見込める場所。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・バスレーンを作るなら優先だと滞留するので専用レーンが必要。 ・P&BR♦はまちなかに作るとバス利用目的外の利用があるのではないか。 ・P&BR は有効と考えるが、駐車場は無料にすべき。 ・高齢者の免許返納が事故防止・渋滞緩和につながると思う。 ・行政側で免許返納者のバス利用の一部負担を望む。

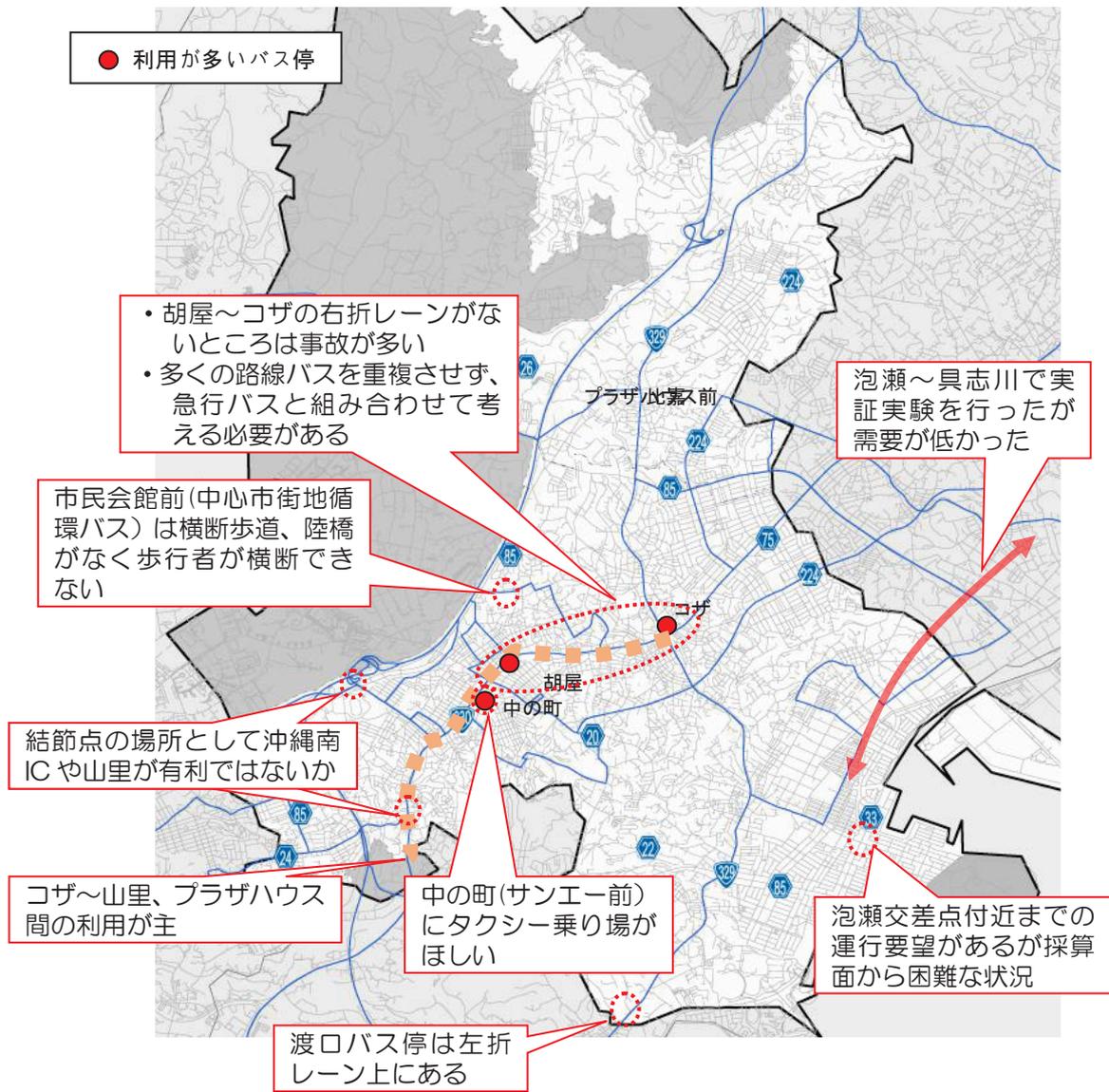


図 5-13.事業者ヒアリングの結果

4-3 学校

●高校へのヒアリングでは、時間通りのバスの運行や、泡瀬・高原方面へのバスの運行、バスの増便等の要望が寄せられました。

表 5-7.学校ヒアリング結果

項目	内容
登下校時の公共交通利用	<ul style="list-style-type: none"> ・特に利用に関する指導は行っていない（生徒・保護者判断）。 ・自家用車による送迎について乗降場所を制限している。 ・各高校の公共交通利用率は以下の通り。 コザ高校：登校（24.6%）下校（34.8%） 球陽高校：登校（15.4%）下校（42.3%） 美里高校：送迎、バスで約65% 北中城高校：33%（30系統利用が約半数）
公共交通による通学に対するご意見	<ul style="list-style-type: none"> ・時間通りにバスが運行されていない。 ・始発バスに乗っていても遅刻する場合がある（特に雨天時）。 ・泡瀬高原方面のバス本数が少ない。乗り継ぎがないと利用しやすい。
要望	<ul style="list-style-type: none"> ・バスの本数を増やして欲しい、始発の時間帯を早めて欲しい。 ・球陽高校⇒ライカム⇒比屋根の新設道路を利用したルート変更。 ・52系統について、北中城高校に8:20前後に到着する便の検討。
利用促進について	<ul style="list-style-type: none"> ・乗り継ぎの改善。

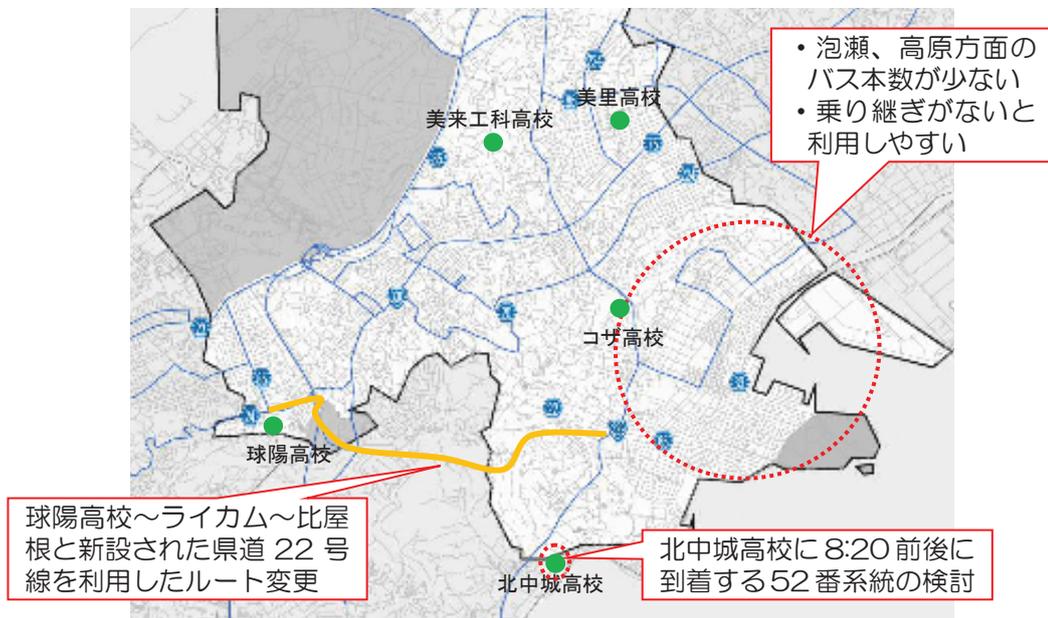


図 5-14.学校ヒアリングの結果

4-4 学校(職員)

- 高校の職員へのヒアリングでは、バス通勤者がいないといった実態や、利用促進に関する意見が寄せられました。

表 5-8.学校(職員)ヒアリング結果

項目	内容
通勤時の公共交通利用	・全職員が自家用車。
公共交通による出退勤時間	・職員の職務規定は県で決められている。
公共交通による通勤について	・バス利用者なし。
利用促進について	・利便性がよくなれば（乗り継ぎなく1路線で行ければ）。 ・中部地区におけるバスレーンの設置。 ・バス運賃の割引制度。 ・バス停における上屋等の環境整備。

4-5 病院

- 病院へのヒアリングでは、路線バスでの来院が少ないといった実態や、バスの運行時間の見直し、県道 85 号線での路線バスの運行といった要望などが寄せられました。

表 5-9.病院ヒアリング結果

項目	内容
来院時の公共交通利用	・各病院の来院時の移動手段は以下の通り。 中頭病院：バス 1.7%、送迎バス 0.2%、タクシー 3.1% 中部協同病院：自家用車利用 9 割 中部徳洲会病院：1 割程度が送迎バス利用 中部病院：自家用車利用 9 割 徳洲苑：デイサービス利用者は全員送迎(ドア to ドア)
送迎バス	・各病院の送迎バスの運行状況は以下の通り。 中頭病院：ちばなクリニックの通所は 1 日 42.2 名（路線バス停遠い） 中部協同病院：2 ルート交互運行 20 名程度の利用、朝夕 4~5 台運行 中部徳洲会病院：沖縄市、北谷、与勝の 3 路線各 4 便 中部徳洲会病院：自治会前(高原、安慶田、照屋、室川、胡屋)各 4 便 中部病院：送迎、デイサービスは運行していない。 徳洲苑：朝 8:30~9:30、夕方 16:00、10 台(運転手+助手)で対応
利用促進について	・病院受付に時刻表の掲示。 ・駐車場が満車になることも多いことから公共交通を使ってもらいたい。 ・徳洲苑~旧中部徳洲会でシャトルバスの運行を実施。
要望	・運行時間帯の見直し(早朝便及び夜間便を新設)。 ・バス停から病院までの歩道の整備。 ・県道 85 号線にバス路線が必要。 ・公共交通利用の制度や方策を検討。 ・中心市街地循環バスの本数を増やして欲しい。

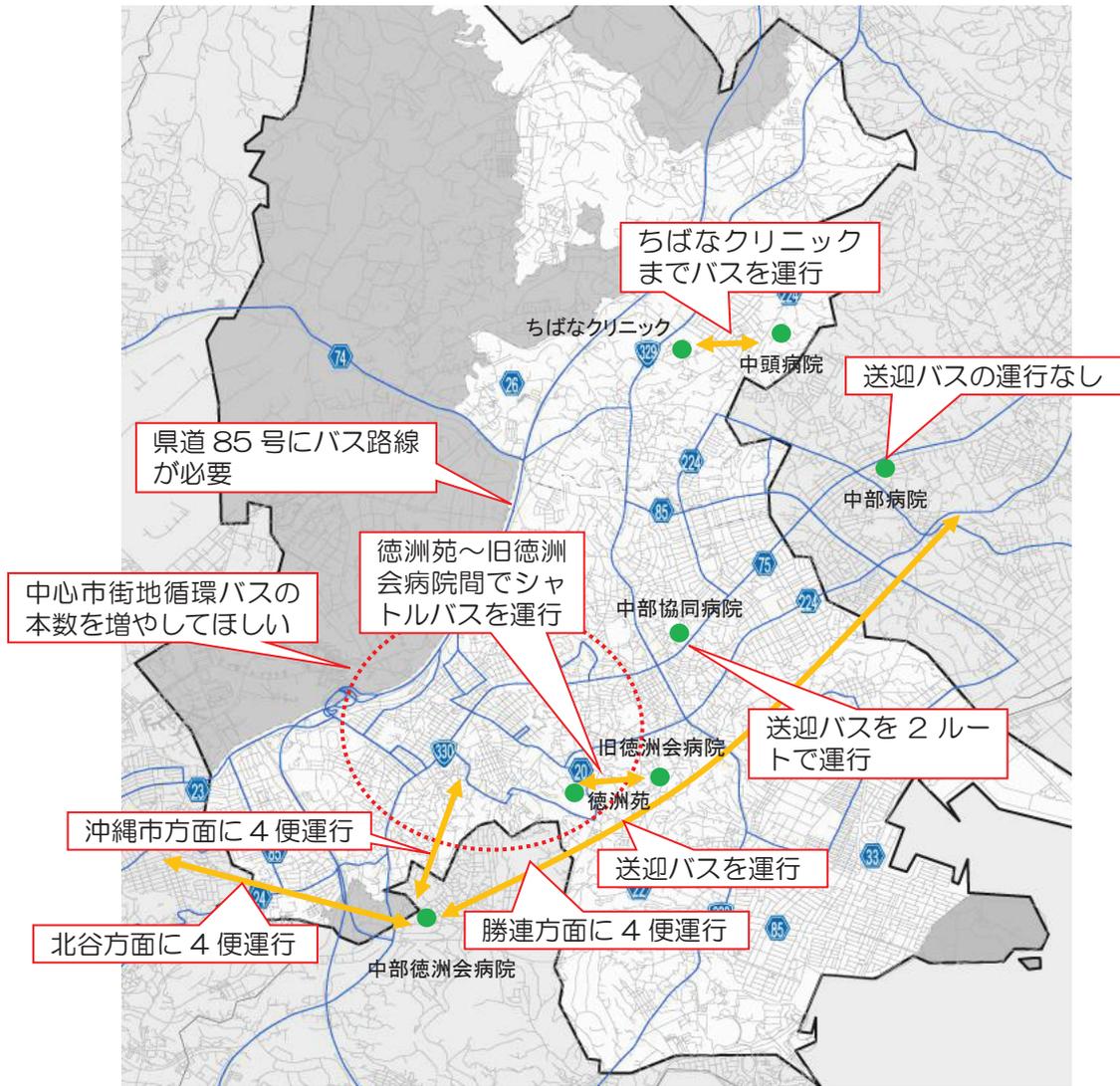


図 5-15.病院ヒアリングの結果

4-6 隣接市町村

●隣接市町村へのヒアリングでは、各市町村における公共交通の運行状況や取組などを把握しました。

表 5-10.隣接市町村ヒアリング結果

項目	内容
職員・来庁者の公共交通利用	<ul style="list-style-type: none"> 職員・来庁者の公共交通の利用状況は以下の通り。 うるま市：バス通勤 1.5%、来庁者 5.1% ※H23 調査 北谷町：バス通勤者は数名程度、来庁者は 1 割程度。 北中城村：バス利用者はほとんど見かけない。
市町村内のバス路線運行状況	<ul style="list-style-type: none"> 市町村内のバス路線の運行状況は以下の通り。 うるま市：ローカル線 1 本含む 26 路線。 うるま市：H27.7 より公共施設間連絡バス運行(2 ルート各 2 台)。 北谷町：11 路線運行、H29 年度にコミュニティバス運行実施予定。 北中城村：村道を走る路線バスが存在しない。 北中城村：コミュニティバス運行検討を H27 実施、H29 に再実施。
公共交通による沖縄市や他市町村との移動ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通による沖縄市や他市町村との移動ニーズは以下の通り。 うるま市：他市町村の施設へのルート要望がある。 北谷町：96 系統が県道 85 号線比屋根方面へ延伸すれば東西方向の基幹に。 北谷町：アリーナや東部海浜スポーツコンベンションエリアへの要望。 北中城村：通勤・通学や私事(買い物)で沖縄市方面の目的地が多い。
沖縄市に対する新規路線や新規バス停設置の希望等	<ul style="list-style-type: none"> 沖縄市に対する新規路線や新規バス停設置の希望等は以下の通り。 うるま市：中頭病院、ちばなクリニック、中部徳洲会、イオンライカム。 北谷町：コザミュージックタウンやプラザハウスへ行けるルート設定。 北谷町：96 系統の延伸による東西方向移動手段の強化。 北谷町：本島中部広域内で始点終点する路線。 北中城村：沖縄市に対するバス路線の開設要望は出ていない。
事業者と連携した施策の実績今後取組む予定の施策	<ul style="list-style-type: none"> 事業者と連携した施策の実績、今後の取組予定は以下の通り。 うるま市：地元バス事業者(平安座)によって伊計屋慶名線を運行。 北谷町：H29 年度運行実施予定のコミュニティバスは琉球バスを予定。 北谷町：美浜イオン前駐車場一帯を交通結節点(P&R◆)化する構想。 北中城村：H29 年度に村内コミュニティバスの導入検討を行う予定。
沖縄市に対するご意見・ご要望	<ul style="list-style-type: none"> 網計画は市単独では実効性が担保されないと思われる。 周辺自治体との連携(話し合える場)は必要 沖縄市を一部通る等のルート案など、これからの検討事項

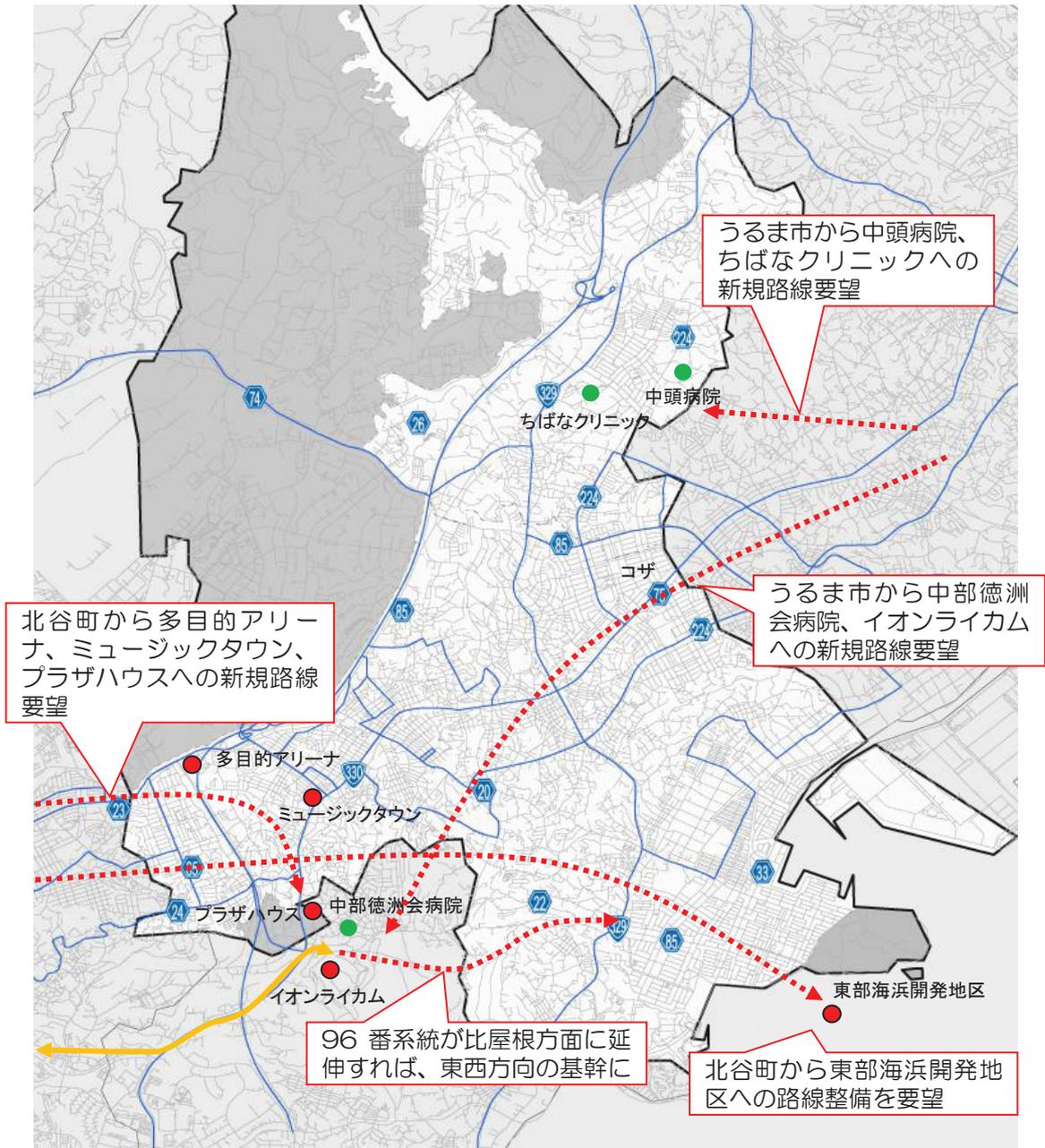


図 5-16.隣接市町村ヒアリングの結果

5 市民アンケート(平成 29 年度)

5-1 公共交通の利便性

- 中部地区、西部地区は公共交通の利便性に対して、6割以上の方が「便利」又は「やや便利」と回答しています。
- 一方、北部地区、東部地区では「便利」又は「やや便利」がそれぞれ30%、20%にとどまっており、東部地区では半数の50%の方が「不便」と回答しています。

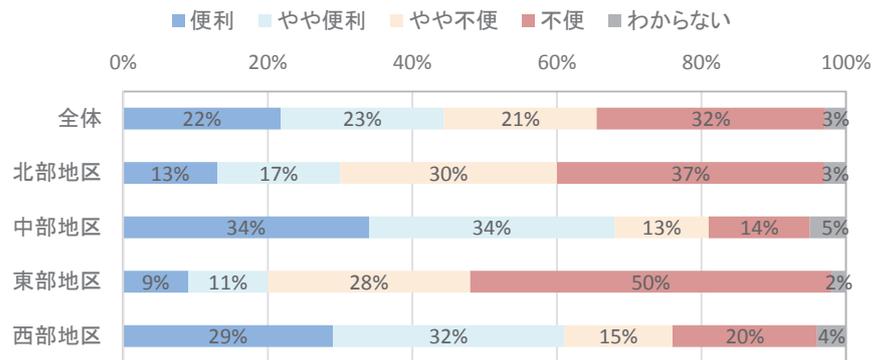


図 5-17.公共交通の利便性

5-2 公共交通の利用意向

- 住んでいる地区に公共交通が整備された場合の利用意向をみると、現状で不便を感じている方が多い北部地区では87%の方が、東部地区では75%の方が「利用する(利用している)」と高い利用意向を示しています。

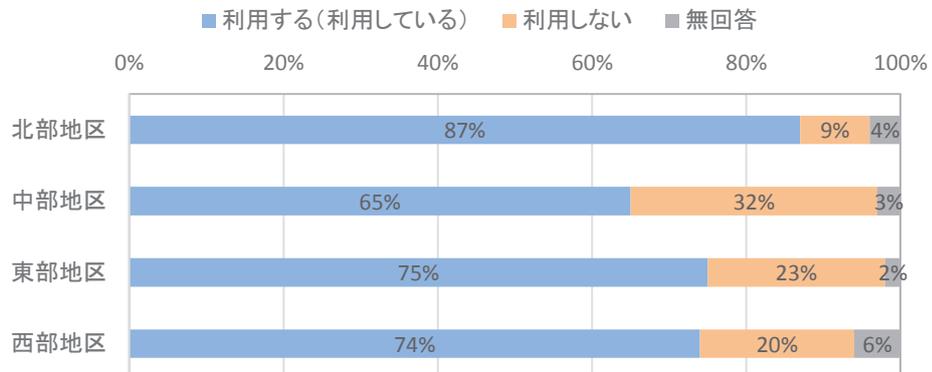


図 5-18.公共交通の利便性

5-3 目的別の移動手段

- 通勤で 88%、通院で 70%、買い物で 74%と「自家用車」の分担率が高くなっています。
- 通勤での公共交通利用は「路線バス」の 1%と非常に少ないですが、通学では「路線バス」が 20%、通院では「路線バス」6%、「中心市街地循環バス」1%、「タクシー」6%の計 13%、買い物では「路線バス」3%、「中心市街地循環バス」1%、「タクシー」3%の計 7%と一定の利用がみられます。

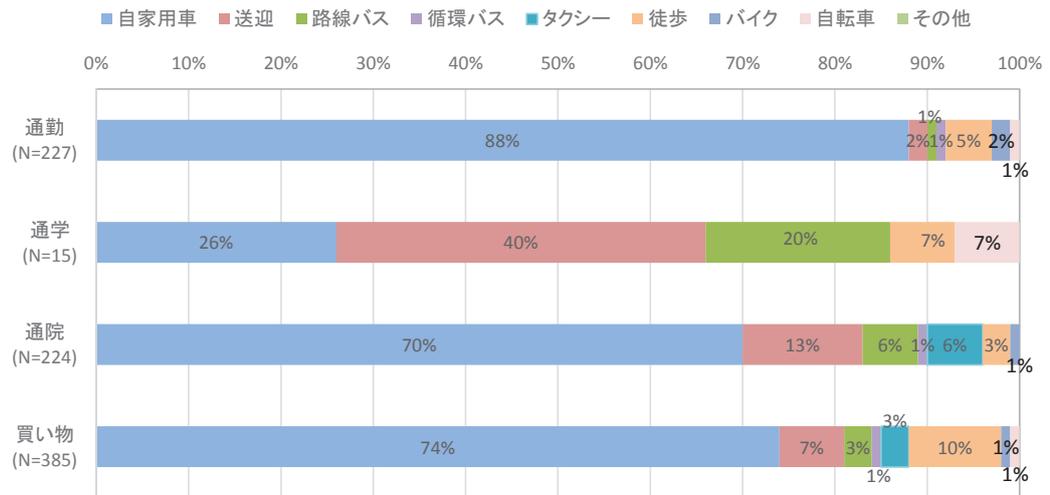
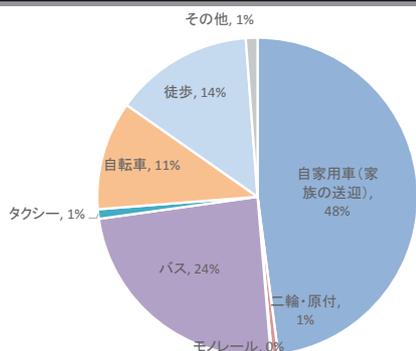


図 5-19.目的別の移動交通手段

6 沖縄県公共交通活性化推進協議会アンケート(平成 23 年度)

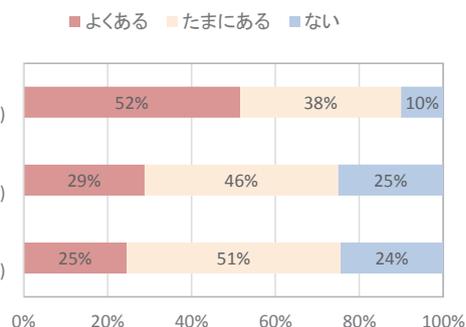
6-1 通学手段

- 高校生の通学手段は「自家用車（家族の送迎）」が 48%と最も多く、次いで「バス」24%、「徒歩」14%、「自転車」11%の順になっています。
- また、家族の送迎の頻度を小・中・高校生毎に見てみると、学年があがるにつれ送迎での通学が「よくある」との回答が多くなり、高校生では、その割合が 52%に達しています。



データ: H23 沖縄県公共交通活性化推進協議会アンケート

図 5-20. 沖縄市の高校生の通学手段

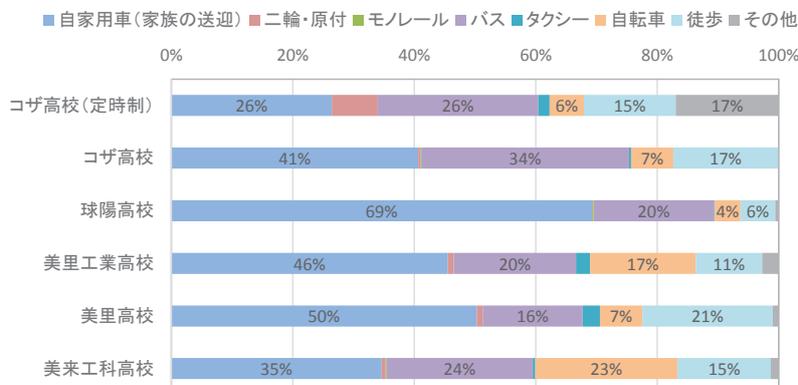


データ: H23 沖縄県公共交通活性化推進協議会アンケート

図 5-21. 家族の送迎で通学する頻度(沖縄市)

6-2 高校別の通学手段

- 高校別では、球陽高校で「自家用車（家族の送迎）」の割合が 69%と高くなっています。
- 路線バスの利用は、国道 329 号に面している「コザ高校（定時制）」、「コザ高校」で 26～34%と高くなっています。
- 国道 329 号、国道 330 号の幹線道路から少し離れた「球陽高校」、「美里工業高校」、「美里高校」では路線バスの利用率が 16～20%と低くなっています。



データ: H23 沖縄県公共交通活性化推進協議会アンケート

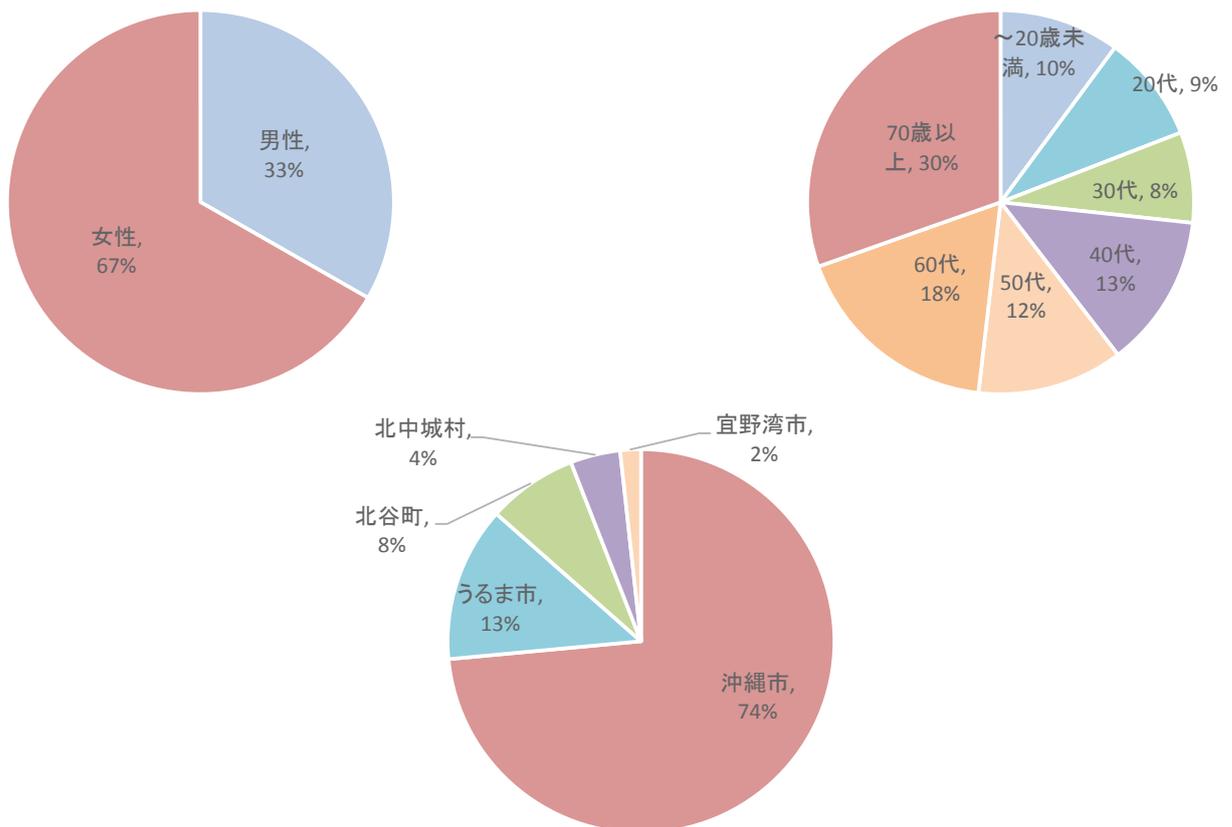
図 5-22. 沖縄市の高校別の通学手段

7 統計データによる整理

7-1 沖縄本島中南部都市圏パーソントリップ調査

1) タクシーの利用状況

- 沖縄中南部都市圏パーソントリップ調査より、沖縄市内でタクシーを乗車した方の性別をみると、男性の33%に対し、女性は67%と構成비가非常に高くなっています。
- 利用者の年代は「70歳以上」が30%、「60代」が18%とこの2つの年代で約半数を占めており、年配者の利用が多くなっています。
- タクシー利用の目的地は、「沖縄市」が74%と多く、その他では「うるま市」が13%、「北谷町」が8%と市外では隣接市町村への移動が多くなっています。



データ: H18 沖縄本島中南部都市圏パーソントリップ調査

図 5-23. 沖縄市内でタクシーを乗車した方の性別・年代・目的地

2) 流入

- 市外から沖縄市に通勤・通学している方の居住地をみると、「うるま市」が8,051人と非常に多くなっています。
- その他では、「宜野湾市」2,354人、「北谷町」1,688人、「読谷村」1,677人、「北中城村」1,373人と本島中部からの通勤・通学者が多くなっています。



出典：H27 国勢調査

図 5-25.市外から沖縄市への 15 歳以上の通勤・通学先者数

3) 流出入の差

- 通勤・通学における流出入の差をみると、「うるま市」が1,956人の流入超過、次いで「読谷村」922人と、この2つの市村からの流入超過が目立ちます。
- 一方、流出超過をみると、「那覇市」が▲1,563人と最も多く、その他では「浦添市」▲910人、「西原町」▲688人、「宜野湾市」▲624人、「北谷町」▲480人と本島中南部が多くなっています。
- 通勤・通学状況を整理すると、うるま市や読谷村などの周辺市町村からの流入超過がある一方で、那覇市をはじめとする本島中南部への流出超過がみられ、本島中部の中心都市でありながら、那覇市の郊外としての側面もあわせ持っています。

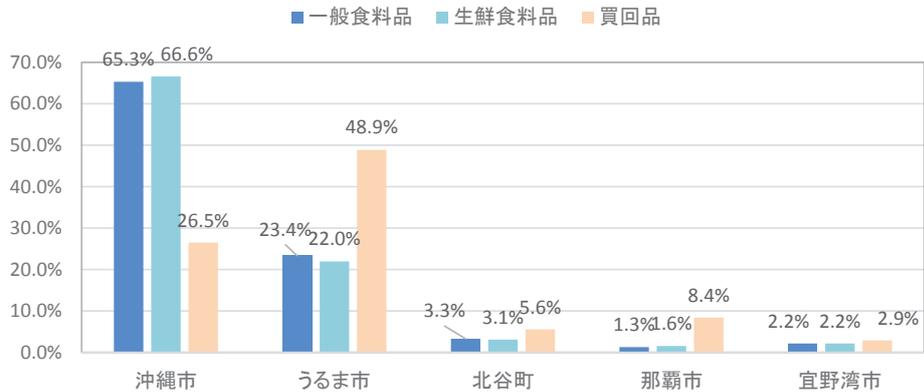


出典：H27 国勢調査

図 5-26.通勤・通学の流出入の差

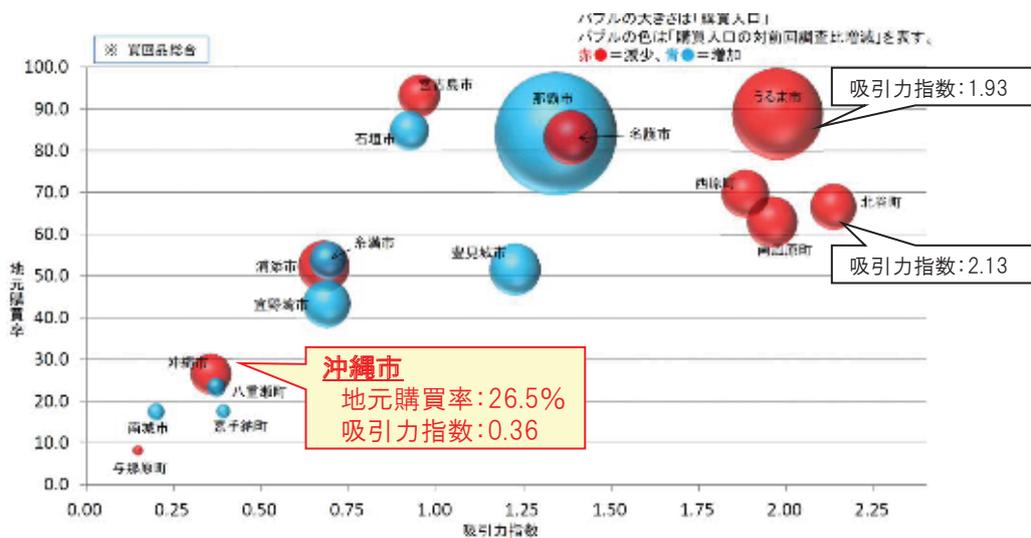
7-3 沖縄県買物動向調査

- 平成 26 年度に実施された沖縄県の買物動向調査によると、沖縄市の地元購買率は一般食料品及び生鮮食料品は 65.3%～66.6%と約 3 分の 2 を占めているものの、買回品♦は 26.5%と低くなっています。
- 市外の買物先は、一般食料品、生鮮食料品では「うるま市」が 22.0～23.4%、買回品では、「うるま市」が 48.9%と半数近くを占め、その他にも「那覇市」が 8.4%、「北谷町」が 5.6%を占めています。
- 買回品の吸引力指数（市町村の人口と購買人口の比率）をみてみると、沖縄市が 0.36 と低いのに対し、本市周辺ではうるま市、北谷町がそれぞれ 1.93、2.13 と高く、これら 2 市町に購買力が流出しています。
- なお、買物動向調査後の平成 27 年 4 月にイオンモール沖縄ライカムが開業しており、現在は、調査時よりもさらに地元購買率が低下し、北中城村での購買が多くなっていると思われます。



出典：H26 沖縄県買物動向調査

図 5-27. 沖縄市民の主な購買先



出典：H26 沖縄県買物動向調査

図 5-28. 主な市町村の地元購買率と吸引力指数(買回品総合)

8 移動ニーズ・実態のまとめ

1～7 より沖縄市における移動ニーズ・実態は下記のように整理されます。

表 5-11.地域特性のまとめ

項目	内容
移動ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ●市民の主な外出先は、市内、市外がほぼ半々であり、東部地区、北部地区は市外への外出が多い。(H28 住民アンケート) ●市内への移動は、地区内での移動が多く、地区外への移動は中部地区への移動が多い。(H18PT) ●市外への外出先は、うるま市や北谷町、北中城村等の周辺市町村に加え、那覇市への移動が多い。(H28 住民アンケート、H18PT) ●通勤通学流動は、うるま市、読谷村等が流入超過、那覇市、浦添市、宜野湾市、西原町等が流出超過となっている。(H27 国勢調査) ●買回品の地元購買率は 26.5%と低く、購買力の 48.9%はうるま市に流れている。(H26 買物動向調査) ●コザバス停では乗り継ぎ目的の利用が 16%を占めている。(H28 利用者アンケート)
移動手段	<ul style="list-style-type: none"> ●外出時の移動手段は、市全体で約 8 割が自家用車となっており、路線バスの分担率は 6%にとどまる。(H25 市民アンケート) ●池原・登川、八重島、古謝・東桃原・桃原の自家用車分担率が 88～92%と高い。(H25 市民アンケート) ●市全体の約 6 割の方が、過去 1 年以内の路線バス利用がゼロである。(H28 住民アンケート)
公共交通の問題点・評価	<ul style="list-style-type: none"> ●バス利用の不安要因として、4 割の方が「定時性」をあげている。(H28 住民アンケート) ●路線バスの利用満足度は 5 点満点で 2.7 点となっている。(H28 住民アンケート)
公共交通への要望等	<ul style="list-style-type: none"> ●バスルートの希望としては、市外への路線を希望する方が多く、行き先としては商業施設、病院が多い。(H28 住民アンケート) ●自治会や高校、病院などからは路線バスの増便や、県道 85 号線、泡瀬・高原方面での路線バス運行などの要望がある。(H28 ヒアリング) ●交通事業者からは沖縄南 IC や山里での交通結節点の整備が提案されている。(H28 ヒアリング)